

住民協働事業審査会 講評

NO	団体名／事業名	関係課	講評
1	NPO法人市民ステーション・まちサポ／メールマガジン利用の協働のまちづくり活性化事業	地域づくり課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各々の課題について、行政情報と市民目線の情報を融合させ、できれば掘り下げながら発信できるというのではないか。双方向的なやり取りを重視されたい。</li> <li>・「地域課題として、市民同士、団体相互の連携が取りにくくなっている。」とあるが、何のために連携が必要なのか。また、「まちづくりに興味を持つ人材の育成・発掘」とあるが、具体的な地域の課題とは何か、を掘り下げることが、必要である。</li> <li>・市民交流会の中で地域の具体的な課題について、意見を出し合い、その中で市民ができること、市と協働することを考えたらよいのでは？</li> <li>・年9回の紙を配っても成果は変わらなかったのではないか？</li> <li>・18回の配信で150名にも満たない。市の職員の理解が得られていない。→当初の事業計画が甘かったのでは？（事業内容がどんどん変化している。）</li> <li>・報告の内容と事業があっていない。</li> </ul>
2	社会福祉法人 翡翠会／認知症カフェ・かきつばたの運営	高齢者支援課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の福祉拠点として着実な進展が見られる。参加者の増加、他団体との連携は住民からの信頼度が高まっていることを示している。</li> <li>・ニーズを的確に捉え、より即した事業展開を期待したい。</li> <li>・協働の中で市との信頼関係ができたことは評価できる。</li> <li>・事業の目的は、認知症の人や家族の相談や参加の場を提供し、暮らし続けたいという願いに答えること。しかし、ターゲットを変え、元気な人に認知症になりたくない、なった後どうするかに答えることとしたことはよいが、認知症の相談も少ないとあるので、当初の目的（認知症の人や家族の願いにこたえる）を実現できるよう工夫をしていただきたい。</li> <li>・あんとんねえさーとのコラボに期待する。</li> <li>・決算を見ないとわからない。（参加が増えると会費収入がふえているはず。）</li> <li>・当初予算では、備品購入に33.5万をみていたが、何を買ったのか知りたかった。</li> <li>・法人として、この事業を行うメリットは達成しているか、補助なしで運営できそうか？</li> <li>・他団体と連携できているのはよい。</li> </ul>
3	大網白里ひまわりねっと／男女が共に輝く地域づくり事業	地域づくり課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政の担当部署とのやりとりを増やし、協働する狙いや役割分担を明確にすべきである。</li> <li>・情報の受け手やイベントの参加者の立場に立って、必要とされていることを訴えかけていてもらいたい。</li> <li>・「男女共同参画」をより身近なこととして考え、理解する市民を増やすという目的に対し、事業企画のアイデアはよいが、実施の準備を詰めることが必要だったのではないかと思われる。</li> <li>・「実行力」の実績のところ、事業の実施結果（参加人数やアンケート結果など）や成果が詳しく報告書に書かれていないので、総合評価としてもつかみにくい。</li> <li>・講演会は限定した27名で濃い内容になったか？さらに、広げる部分も考えてほしい。</li> <li>・なぜ、高校とのコラボ事業、マタニティファッションショーができなかったのか？</li> </ul>

住民協働事業審査会 講評

NO	団体名／事業名	関係課	講評
4	街資源再興プロジェクト／ハマボウフウ特産品化プロジェクト	農業振興課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハマボウフウの産物価値を多角的に掘り下げ、情報発信と確保につないでいることは高く評価できる。</li> <li>・農家との生産協力体制、商品、加工体制をどう確立させるかが課題。</li> <li>・地域の特産品づくりと自然保護を目的として、栽培、成分分析、協力店での販売など、様々な点から事業を企画して進めていることが評価できる。</li> <li>・広報は更に効果をあげるように検討してもらいたい。(たとえば、Facebookページへの「いいね！」の数を上げて、発信力をもてるようにすることなど)</li> <li>・わかりやすい言葉を使ってもらいたい。</li> </ul>
5	ぐるっと大網30kmウォーク実行委員会／ぐるっと大網30kmウォーク	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働事業として実施する目的、効果をより明確にさせる必要がある。</li> <li>・各方面の協力を得ながら、地域への定着を図ろうとしている点は評価できる。</li> <li>・主催者に新たな方々が参加し、より開かれたイベントにできるかが今後のポイントである。</li> <li>・大網白里市の特長を生かし市民、市外の人が多く参加し、楽しめる事業になっている。</li> <li>・報告書を見る限り、団体と市の双方の評価にあるように協働による効果があったとあまり認められなかった。</li> <li>・事業は良いものだと思う。</li> <li>・協働にするには根本的な話し合いが必要かと思われる。</li> </ul>
6	上谷新田区買物送迎事業／特定非営利活動法人買物送迎フレンドリー	高齢者支援課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通が不便な地区での買物送迎を継続して行っていることは、他のモデルとなる事業である。</li> <li>・利用者、ボランティアが増えていること、講習会への参加など団体の努力と協働の成果がみられる。</li> <li>・買物送迎という視点と狙いが着実に地域に浸透しつつあり、とても高く評価できる。</li> <li>・支援者のスキルアップ、ニーズ対応なども努力されている。</li> <li>・NPO化でどう持続性が高まっていくかが課題である。</li> <li>・とてもバランスが良い。見習いたい。</li> </ul>